

J.S.Bach Inventionen

バッハ インヴェンション

第3番 ニ長調 BWV774

- 楽曲分析と演奏法 -

著者：市花 真弓

目次

はじめに、バッハの作品を演奏するにあたって	3
1. バッハ「インヴェンション」第3番 D dur BWV 774 楽譜	4
2. スラーと装飾記号の演奏について	6
3. バッハ「インヴェンション」第3番 D dur BWV 774 第 I 展開部の楽曲分析と演奏法について	8
4. バッハ「インヴェンション」第3番 D dur BWV 774 第 II 展開部の楽曲分析と演奏法について	12
5. バッハ「インヴェンション」第3番 D dur BWV 774 第 III 展開部の楽曲分析と演奏法について	15
6. バッハ「インヴェンション」第3番 D dur BWV 774 第 IV 展開部の楽曲分析と演奏法について	18
7. 楽譜に 3～6 のアナリーゼの内容を表記しました。 テンポ、強弱も記しました。	21

■はじめに

2003 年度からメールマガジンの配信システムを利用しました音楽講座としまして、「バッハ インヴェンションを弾いてみよう！- 楽曲分析と演奏法 -」の発行を始め、2012 年に PDF 書籍版に移行致しました。思いがけず、多くの皆様にご利用頂け、パソコンの前で頭が下がる思いでおります。

この度、全 15 曲の PDF 書籍、それから You tube 講座の全面作り直しをする事と致しました。

ピアノ初心者の方、それから、最近はコンクール課題において、小学 5, 6 年生がインヴェンションを演奏しているようです。そういった子供達にも理解出来るように制作したいと考えています。

(2019 年 3 月)

■バッハの作品を演奏するにあたって

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (Johann Sebastian Bach 1685-1750) は、ドイツの作曲家でバロック音楽の重要な作曲家の一人です。「音楽の父」と称される音楽家でもあります。

バロック音楽というのは、ヨーロッパにおける 17 世紀初頭から 18 世紀半ばまでの音楽の総称です。バロック音楽の作曲家は、ジュリオ・カッチーニ (1545-1618) (イタリア・ルネサンス音楽末期、バロック音楽初期の作曲家となります)、ドメニコ・スカッラッティ (1685-1757)、アントニオ・ルーチョ・ヴィヴァルディ (1678-1741)、ヨハン・ゼバスティアン・バッハ (1685-1750)、ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル (1685-1759) などが上げられます。

今から 300 年くらい前の時代です。ピアノという楽器はありませんでした。ピアノの原型にあたりますチェンバロ (独: Cembalo, 伊: clavicembalo) で演奏されていました。このチェンバロは、英語ではハープシコード (harpsichord)、フランス語ではクラヴサン (clavecin) といいます。

ピアノとチェンバロの違いは、まず、チェンバロにはペダルがない事があげられます。ですので、今日、ピアノでバッハを演奏する場合にも、基本的にはペダルは使用しません。次に音を出す原理が違います。ピアノは、弦をハンマーで叩くことで音が出ます。しかし、チェンバロは、爪状のプレクトラムで弦を掻いて発音します。ですので、チェンバロではピアノのようなダイナミクスな演奏は出来ません。

それから、バッハの音楽は対位法的音楽です。多声音楽で出来ています。多声音楽の事をポリフォニー (polyphony) といいます。ポリフォニー (polyphony) の対義語としては、ホモフォニー (英語: homophony、独語もしくは仏語: Homophonie) となります。和声音楽です。

曲集に採用されています 15 調は、ハ長調ーハ短調ーニ長調ーニ短調ー変ハ長調ーホ長調ーホ短調ーヘ長調ーヘ短調ート長調ート短調ーイ長調ーイ短調ー変ロ長調ーロ短調 と 嬰ヘ短調、嬰ハ短調、変イ長調を除く 15 調が上行形に整えられています。(シャープ、フラット 4 つまでの調です。) このように調が整えられている事も、バッハの作品の特徴とも言えます。

Inventio 3

Johann Sebastian Bach
BWV 774

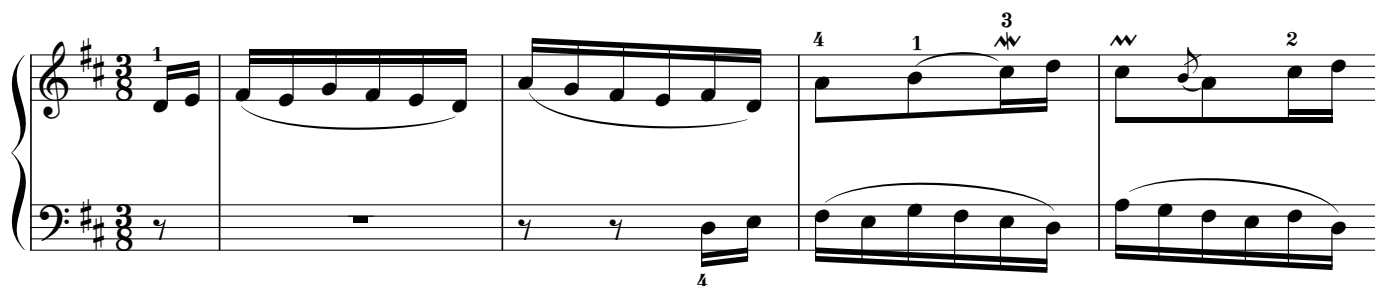
[illegible]

2. スラー (弧線) と装飾記号の演奏について

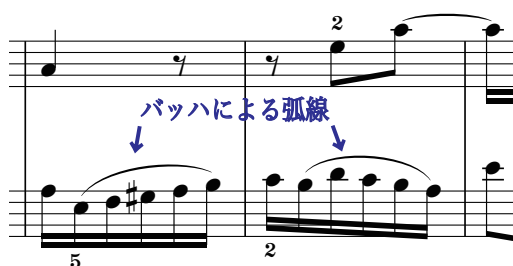
■ スラー

この曲は、曲全体にバッハによるスラー (弧線) が書き込まれています。ただ、残念な事に、バッハのスラーは判読し難く書かれているようで、どの音からどの音までがスラーであるのか解り難く、版によってスラーが異なって表記されているようです。

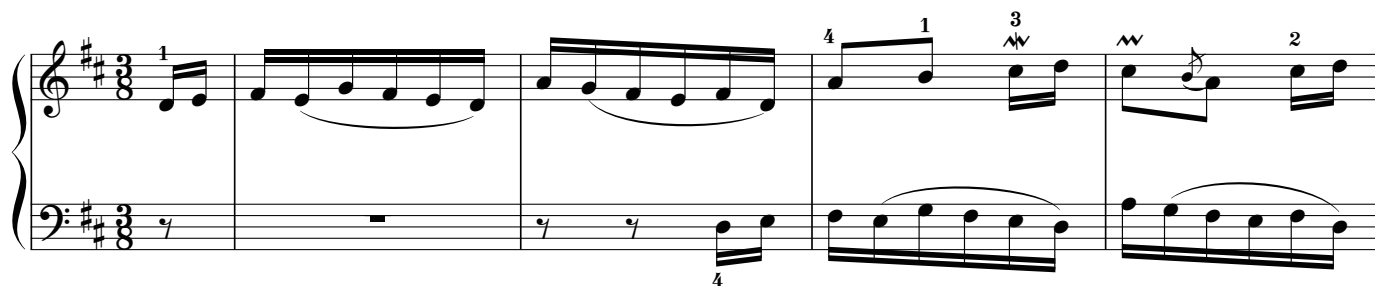
例えば、ヘンレ版は小節毎のスラー表記となっています。



しかし、第Ⅱ展開部冒頭の 12~13 小節の下声主題部分のスラーは、バッハによる弧線として明確なようです。



こういった資料など私なりに調べました限り、この講座で使用させて頂いていますスラーが適切と思います。



3. 第 I 展開部の楽曲分析と演奏法について

第3番は、大きくは第1部分と第2部分から構成されています。第1部分の中に第I展開部と第II展開部が置かれています。第2部分の中に第III展開部と第IV展開部が置かれています。

第I展開部は、1～11小節です。

この曲の主題の範囲は、意見が分かれると思います。以下を主題と解説しています解説書も多いかもしれません。



でも、ここまでを主題としますと、曲の初めと第IV展開部の初めのみに登場するだけとなってしまいます。主題と接続句と解釈しますと、全体に適応します。



そして、主題の中の” ミソ#ファミレラ” の部分を a と考えます。この a の部分の解釈も分かれると思います。以下を a と解説しています解説書もあります



私は、Aを採用します。そして、この主題に対し、第一対旋律が置かれています。(第一対旋律の範囲を以下の点線部分と捉える解釈もあります。)

